

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300408		
法人名	株式会社ノエル		
事業所名	グループホームノエル本庄		
所在地	埼玉県本庄市小島1丁目1番34号		
自己評価作成日	平成30年12月26日	評価結果市町村受理日	平成31年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成31年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット9人の小規模な環境を生かし、利用者様がやりたい事の個別ケアを行っています。「人が人らしく」を理念としたあたたかい環境づくり、職員一人一人が利用者様に向き合い訴えを汲み取っています。一か月毎の行事では利用者様に楽しんでいただけるよう、また思い出に残るように手作りで作品を作成したり写真に残しています。また利用者様の楽しみでもある食事に力を入れ、職員が一から手作りで利用者様一人一人に食べやすい食事形態で提供。味付けも好みを聞くなどして工夫しています。ご家族様とは毎月個々の写真入りのノエル通信を作成し送付したり、面会時には体調等の近況報告を職員一人一人がおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者が「地区の支会長」を務めることで、広報の配布やゴミ拾い行事に参加するなど地域貢献に取り組み、地域との連携が強化され、地域住民からの認知度の向上に繋がられている。また、家族に送付する「ノエルレター」を媒介に、事業所や職員の思いが伝わり、家族からも「入居して表情が良くなった」などの評価を得ている。  
 ・運営推進会議には地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員のほか、利用者や職業体験中の中学生にも参加いただいている。消防訓練や中学生の職場体験の様子などを写真を用いて報告され、参加者からはインフルエンザ対策やオレンジリングの活用についてなど発言され、事業所の運営にも反映されている。  
 ・目標達成計画については、災害対策での近隣との協力体制作りを取り上げ、住民参加の合同避難訓練の実施には至らなかったが、近隣住民へ災害発生を知らせ、協力を呼びかける訓練を行うなどの進展が伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人が人らしく」を基本理念とし管理者と職員は利用者一人一人の人格を理解しケアに努めています。	その人それぞれの行動はどうしてなのか、認知症であっても人として思いやり、職員がお互いの気づきを話し合うことで、「人が人らしく」の理念を実践されている。「自分だったら」、「自分の親だったら」を常に考え、接するよう努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には近隣住民を招いたり、中学生の職場体験を受け入れ老若男女問わず地域の皆様との交流を図っています。	管理者が地域の役員を担い、地域との距離が近くなり、相互交流が図られている。また、市内の中学校の生徒が職場体験に来られ、中学生の意見から事業所の職員も学ぶことができ、地域との深いつながりに結び付けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を生かし身体拘束についてやインフルエンザ等の季節に応じた研修を行ったり、小島地区のボランティア活動に参加し地域住民と交流を図り認知症の方の理解に繋げています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では近隣住民や地域包括、御家族、利用者様が参加され、施設の行事報告をし意見交換や地域包括の方の他事業所での体験談等の意見を取り入れサービス向上に努めています。	運営推進会議では、消防訓練や中学生の訪問の様子などを写真を用いて紹介することで、事業所の取り組みへの理解が深められている。参加者からは季節の感染症の情報やオレンジリングの活用について提言をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市に一月に一回空き状況の報告をしたり、運営推進会議の議事録提出や入所したい利用者様の住所変更等不明な点を連絡、相談し、事業所の実情を把握してもらっています。	日常的には空室状況や市内の他の事業所の取り組みなどの情報交換が行われている。「不明なことは聴く」姿勢を持ち、法律改正に関することや難しい事例などを相談できるよう連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は家族の同意のもと4点柵を行っていましたが職員間で身体拘束についての研修、話し合いを行い柵を3点柵にしたらどうなるのか、メリット、デメリットを考えました。今では4点柵をなくし身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化の取り組みを行う中で、「何が拘束になるか」、わからないことや不明なことなどを取りまとめ、会議の場で話し合われている。拘束や虐待によって起こるデメリットを考え、安全を意識しながら拘束に頼らないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力行為のある利用者様に対し一番虐待が起こりうると考え危険な時は職員二名で対応するよう指導し虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、権利擁護に関する資料を設置すると共に研修会を開催し職員に学ぶ機会をもうけて職員一人一人がスキルアップを図り活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に利用者様、ご家族様に不明な点や不安な点を聞き納得いくまで説明を行い安心して入居できるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自ら訴えることが出来ない利用者様に対しても、「自分だったら」と置き換え考え気持ちを汲み取るようにしています。また面会時や運営推進会議にて意見交換、近況報告をし運営に反映させています。	その時々利用者個々の要望を聴くように努め、「私は～は嫌い」という時にはメニューを変えるなどの対応がとられている。家族からは、信頼度の高さを反映して、「母の好きなことをやらせてください」、「花を持ってきたので見せてあげて」などが申し出られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議では事前に職員に対し利用者様の事や業務の内容等、話し合いたい事を聞きとり話し合いの場を設けています。	利用者の健康管理についてや、清掃の仕方、利用者同士の相性など、職員からの発言はケース会議に取り上げられている。職員間のコミュニケーションが良く、現場の意見が管理者まで伝わりやすく、事業所の運営にも大きく反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人の実績を把握し職場環境の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修や資格取得の費用等負担し職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と連絡を取り合い情報交換や共有し良好な関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人一人が利用者様の話に耳を傾け、要望や可能な限り欲求を満たすよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安な事や要望を聞きとり、面会時には細かく報告するよう努めています。また毎月のノエル通信には写真を入れ込み、あまり面会に来られないご家族に対しても安心していただけるようにしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて他サービス利用も合わせて希望される場合はできる限り対応させていただきます。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人一人が暮らしを共にする気持ちを持ち利用者様と積極的にコミュニケーションを図り良好な関係を築いています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡をこまめにとり、本人とご家族様の絆を大切にしながら、家族のパートナーとして本人を支える姿勢を築いています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚等の面会の際には居室へ案内し一緒にお茶を召し上がれるよう配慮しています。また面会者がお帰りになった後も職員が利用者様と話しをし思い出を聞く等関係が途切れないよう支援に努めています。	在宅時のヘルパーや知人の訪問を受け入れ、帰られた後に職員が「今の方はどなた？」などの声かけを行い、思い出が途切れないようフォローに努められている。入居後は他の利用者の家族が声をかけてくれるなど、新たな馴染みも生まれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士にも相性がある事を職員が把握したり、集団レクや行事を通して利用者様同士が関われるよう支援に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者ご家族様に経過や様子を伺いこれまでの関係を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを積極的に図り一人一人の要望や意向を聞き取ったり、会話の難しい利用者様の表情や身振り手振りで汲み取っています。	利用者の目を見て話すことを大切に、その日のちょっとした気持ちや様子の変化に気付くことで、思いや意向を把握しケアに活かされている。これまでの仕事や趣味のこと、出身地の話題などをきっかけに会話が生まれたケースも伺われる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に介護支援専門員やご家族様からこれまでの生活歴等の情報を提供してもらい把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活状況等を情報提供書や記録書類、ケース会議にて職員が常に把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人一人の課題や対応策をケース会議で話し合い情報を共有しています。また主治医や看護師等の関係者からの意見を取り入れ介護計画に反映させ作成しています。	ケース会議で利用者一人ひとりの課題を話し合い、達成可能なサービス内容を具体的に盛り込んだケアプランが作成されている。利用者の思い、家族の要望や心配事、現場職員の意見などを十分に拾い上げるよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人、ケース記録、夜間の行動記録、日誌等に記録し職員同士が情報共有すると共に実践、結果、評価をし介護計画に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに応じて柔軟なケアサービスを提供するよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の回覧板等を活用し地域資源の情報をいただき参加していきたいと思ひます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に説明を行い、本人、ご家族様の意見を尊重し入居後の医療機関を選択していただいています。	日常的には協力医療機関と連携し、状況に応じて家族とも相談しながら専門医へ受診されることで、適切な医療サービスが受けられている。受診後の医師からの指示や薬の変更などは申し送りノートに記載され、全職員に周知を図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に連絡が取れる体制をとり、一週間に一回、利用者様の体調面や精神面等の状況を報告、相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師の協力のもと、緊急時は速やかに入院できるように努めています。また入院してからも病院関係者との情報交換を密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向を尊重し主治医へ相談、その後今後の方針を決定しています。	重度化の進行を見ながら段階ごとに家族と話し合い、家族の気持ちの変化にも対応し、事業所としての方針との共有に努められている。今後予想されることや退所後のことも含めた情報提供にも医師のアドバイスを受けながら取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に職員が焦らずに対応できるよう「緊急時の対応方法」と掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練では参加できる利用者様は参加していただきました。また外に向けてメガホンでサイレンを鳴らし近隣住民に呼びかける訓練をしました。	自事業所の環境に合わせた訓練が実施され、新人職員を中心に通報訓練や近隣へ知らせる呼びかけの実践などが行われている。火災だけでなく、地震などの自然災害にも対策が講じられ、備蓄などの確認を常に行われている。	訓練時、近隣へ呼びかけなどが実践されていることから、更に地域住民の方の訓練への参加に繋げていくことに取り組まれ、課題を一つ一つ解決していかれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	硬すぎず、否定せず、利用者様を受容するような思いやりのある言葉で言葉かけをしています。	利用者からの暴言や物を盗られたなどの申し出にも「受容する」気持ちを持ち、職員でどう対処するか考えるよう取組まれ、一人ひとりの尊重に繋がられている。体調に合わせて食事時間をずらしたり、服装も自由に選んでいただいている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望を聞き、日常生活に取り入れるように努めています。利用者様がうまく話ができなくても簡単な回答ができるよう自己決定しやすいような言葉かけを行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、ゆったりとした生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装など迷っているときはアドバイスしたり、いつ面会者が来ても恥じる事のないよう身だしなみには配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを会話の中から汲み取り献立に入れていきます。食事形態も一人一人に合わせたおかずにて提供しています。	食材の買い出し、調理をすべて職員が実施し、「美味しく食べやすく」をモットーに食器や盛り付けなどの見た目にもこだわった支援が行われている。利用者のリクエストで「いわし汁」を作ったり、運営推進会議でお汁粉を出すなどの取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し健康管理を行っています。摂取量が少ない時や体調が悪い時は医師に相談したり、食べられるものを作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科を利用し口腔内の清潔保持、嚥下体操、認知症進行防止等に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのADLを把握しその人に合ったケアをしています。また羞恥心に配慮しながらできることは自身で行ってもらっています。	排泄時のスポンの上げ下げなど出来ることはやっていたが、排泄後のケアにも配慮がなされている。失禁が増えてきた利用者にはケース会議で対応を考え、家族とも話し合いオムツやリハビリパンツにできるだけ頼らないよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表、水分摂取表に記録し排便の状況を把握しています。また便秘気味の方は主治医に相談し薬で調整してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は指定せず、その都度声をかけさせてもらっています。季節ごとの菖蒲湯やゆず湯などを楽しんだり、入浴剤も何種類か使用し色やにおいも楽しんでもらっています。	利用者の身体状況や健康に配慮し、湯船に入ることが難しい利用者にはシャワー浴や足浴を併用しながら支援が行われている。入浴剤を用いたり、利用者の話を聴いてあげたりすると同時に体の傷や皮膚の状態などもチェックされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者様一人一人がどんな種類の薬を飲んでいるのか把握できるようにケース会議で話をしています。また往診後に薬の副作用等薬剤師から指導いただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出支援やレクリエーション、行事に参加していただき楽しんでいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣を散歩し猫や近所の方との会話を楽しむことが出来ました。また他事業所での踊り等のボランティアを見に行き喜ばれていました。	職員から「～～に行きたいけれどどう？」とお誘いし、「1か月に1回は外出イベント」の取り組みを継続され、利用者だけでなく家族からも好評を得られている。初詣、イチゴ狩り、花見などに出かけられ、季節の移り変わりを感じていただけるよう支援がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの認知症の症状に応じて自分のお金を使用できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと希望があった場合はできる限りご家族に電話をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは1年通して温度と湿度の管理をしっかり行っています。また壁にその季節の装飾をし認知症の方でも楽しんでいただけるよう工夫しています。	ひと手間加えた手作り感のある共用空間が作られ、夏の除湿や冬の加湿に十分配慮し、熱中症や感染症のない環境整備が行われている。利用者は新聞を読まれたり、集まってカルタ取りをするなど、おだやかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人一人に合わせたペースで過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に以前使用していたものを置いたり、使いやすいものを使用し本人が居心地の良い空間となるように配慮しています。	「人が人らしく」の理念にあるように、利用者それぞれの個性を活かした居室作りへの支援がなされている。趣味の詩吟や「数独パズル」の本を持ち込まれたり、ラジオからの音楽を楽しめるなど、自分のペースで生活をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活ができるように手すりの設置やバリアフリーなど安全面に気を付けています。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームノエル本庄

## 目標達成計画

作成日:平成 31 年 3 月 27 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策	地域住民との協力体制	消防訓練を運営推進会議の内容に盛り込み、災害時に迅速に対応ができるように近隣住民の方へ参加してもらい協力体制の強化に努める。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。